

群馬学習センター 30年のあゆみ



沿革

1981(昭56)年	6月	放送大学学園法公布・施行
	7月	放送大学学園設立
1983(昭58)年	4月	放送大学設置
1984(昭59)年	10月	学習センター設置：群馬・埼玉・千葉・東京第一・東京第二・神奈川
1985(昭60)年	4月	放送授業開始・学生受入れ開始 学習センター開所：群馬・埼玉・千葉・東京第一・東京第二・神奈川 フリーターキングアワーの実施
1988(昭63)年	6月	「大学の窓」の収録
1989(平元)年	4月	3学期制から2学期制へ移行 第1回卒業式挙行政
	9月	中央教育審議会委員(会長：三浦朱門)視察
	12月	群馬学習センター同窓会が発足
1990(平2)年	6月	附属図書館開館
	8月	若宮フェスティバル開催(以後、連続して平成6年まで5回開催)
1995(平7)年	4月	群馬学習センター開設10周年を迎える
1997(平9)年	7月	機関誌「上州」創刊
1998(平10)年	1月	CSデジタル放送による全国放送開始
	4月	学習センター改組
	10月	学習センター全国化完了(北関東ブロック拠点学習センターに位置付けられる)
2001(平13)年	4月	放送大学大学院(修士課程)設置
2002(平14)年	4月	放送大学大学院修士課程学生受入れ開始・放送授業開始
2003(平15)年	10月	放送大学学園法の改正に伴い、特殊法人から特別な学校法人へ移行
2004(平16)年	3月	最初の大学院(修士課程)学位記授与式
	12月	第1回土曜フォーラム開催
2005(平17)年	4月	群馬学習センター開設20周年を迎える
	11月	特別公開講演会(丹保憲仁放送大学長 他)開催
	12月	御手洗理事長が群馬学習センターを視察
2006(平18)年	12月	地上デジタル放送開始(関東エリア)
2007(平19)年	4月	沼田ミニサテライト開設
	5月	ラジオ放送授業のネット配信開始
	10月	放送大学の英語名称を「The Open University of Japan」に変更
2008(平20)年	6月	テレビ放送授業のネット配信開始
	11月	システムWAKABA稼働
2009(平21)年	3月	群馬学習センター改修工事竣工
	4月	ICT活用・遠隔教育センター設置 新カリキュラム開始
	7月	教員免許更新講習開始
2010(平22)年	4月	名誉学生制度の創設
	12月	群馬学習センター開設25周年特別公開講演会(石弘光放送大学長)開催
2011(平23)年	10月	BSデジタル放送開始
2012(平24)年	3月	CSデジタル放送終了
	10月	第1回ブータン・デー開催(第2回は平26.2月)
2014(平26)年	4月	大学院博士後期課程を設置
	9月	学園祭開催
2015(平27)年	2月	白井理事長が群馬学習センターを視察
	4月	オンライン授業開始
	9月	群馬学習センター開設30周年記念式典・特別講演会(岡部洋一放送大学長、宮本みち子副学長)・学園祭開催

30年のあゆみ



建設中の群馬学習センター



開設時の群馬学習センター(S60)



昭和61年度入学者の集い
左から、初代町田周郎所長と、横山、青山、吉岡の各助教授(当時)



最初の学生研修旅行
(S61 国立西洋美術館)



昭和63年度入学者の集い
(初代町田周郎所長)



放送大学公開講演会(第30回)
(S63 県民会館)



昭和63年度学生研修旅行
(国立天文台堂平観測所)



「大学の窓」の収録の様子(S63)



第1回群馬学習センター卒業証書授与式
(H元 第2代瀧口利夫所長)



中央教育審議会委員(会長：三浦朱門)視察
(H元)



第1回若宮フェスティバルの様子(H2)



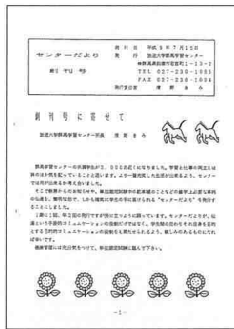
卒業生有志による絵画の贈呈が行われ、廊下等に展示される(H4)



平成6年度入学者の集い
(第3代清野きみ所長)



平成7年度学生研修旅行(尾瀬ヶ原)



センターだより「上州」創刊号表紙(H9)



平成10年度入学者の集い
(第4代松村祥子所長)



平成13年度放送大学公開講座
(江淵一公所長 他)



平成15年度学位記授与式
(第5代江淵一公所長)



第1回土曜フォーラム(H16)



特別公開講演会
(H17 開設20周年の秋に開催、丹保憲仁放送大学長 他)



沼田ミニサテライト開設記念式典(H19)



平成19年度学位記授与式
(第6代矢野由美彦所長)



平成20年度学生研修旅行
(箱根・彫刻の森美術館)



群馬学習センター開設25周年記念特別公開講演会
(H22 石弘光放送大学長)



平成23年度学生研修旅行
(戸隠・小布施)



第7代白井紘行所長退任記念講演(H24)



Bhutan Day
ブータン王立シェルプツェ・カレッジとの交流(H24、H26)



平成26年度学園祭

開設30周年を迎えて

放送大学群馬学習センター所長
加藤 幸一



放送大学群馬学習センターは、1985(昭和60)年4月、放送授業の開始と同時に、南関東の5センターとともに開所し、学生を受け入れてから今年で開設30周年を迎えました。この間、生涯教育の拠点として成長、発展できましたのも、物心両面の多大なご協力を賜った設置協力母体である群馬大学をはじめ、各自治体の教育委員会、地域の皆様、学生の皆様、教職員のご協力とご支援の賜物であり、関係各位に心から感謝いたします。

皆様のご支援により、群馬学習センターには、現在、学部1,602名、大学院(修士)108名が在籍しており、年齢層は10代から90代まで幅広く、職業別でも、看護師、会社員、教員、公務員、退職者等、多彩な人々がそれぞれの目標に向かって学んでおります。群馬学習センターで開講する面接授業は年間約45クラスで、地域の大学教員等が放送授業では難しい、文章作成、実験、実習、英会話などの体験的な授業や尾瀬の自然、富岡製糸場と絹産業遺産群を取り上げた地域特有の授業などを開講しております。これまでに卒業、修了した方は2,778名になります。

このような中で、群馬県と沼田市からは生涯学習の振興充実にご理解をいただき、山間部での難視聴による学習ハンディの解消のためのミニサテライトの設置・運営にご協力とご尽力を頂いております。また、地域貢献活動として年6回開催する講演会等を引き受けていただいた諸先生方、関係機関・団体等の皆様にお礼を申し上げます。

学生はさまざまな目標、学習環境のなかで自主的に学んでいますが、学習を通して交流も活発化しています。1989(平成元)年に放送大学群馬同窓会が発足して以来、サークルも現在9団体となり、学園祭を開催したり、Gメールを用いたサークル運営も見られます。また、今年7月で57号となった群馬学習センターの機関紙「上州」への学生からの投稿からは、厳しい学習環境を克服して卒業に至った話など心に強く響くものが数多く見られます。

「いつでも、どこでも、誰でも」学習できるキャンパスとして、群馬学習センターは将来を展望しながら、オンライン授業の開始や新カリキュラム施行などを前向きに捉えて、楽しく学びながら人の輪を拓げる支援に努力したいと思っております。最後になりましたが、30周年記念行事の記念式典、記念講演会、記念誌発行、コレクション展、学園祭などの企画、運営にご尽力いただいた実行委員会の皆様、関係各位に感謝申し上げます、開設30周年の挨拶といたします。

放送大学群馬 学習センターの 開設30周年に寄せて

群馬大学長
平塚 浩士



このたび放送大学群馬学習センターが開設30周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

放送大学群馬学習センターと群馬大学の関係について顧みますと、まず、群馬学習センターは、本学が荒牧地区に移転する前の敷地に設置されたと聞いております。つぎに、放送大学群馬学習センターの運営に関わる職員を本学から派遣していること、本学の教員が客員教員や非常勤講師として面接授業を担当していること、また、単位互換協定により群馬大学としての単位認定をしていること、さらに群馬大学の職員研修の一環として放送大学を利用する等、多数の教職員が自己研鑽の場として利用していることから、群馬学習センターは本学にとってたいへん重要なパートナーの一つとなっています。

放送大学は放送を利用して遠隔教育を行う唯一の通信制大学ですが、最近では授業のほとんどがインターネットを通して視聴可能となり、いつでもどこでも学習できる環境となっているようです。さらに、大学院修士課程、大学院博士後期課程を設置して、高度の教育を実施しています。私も時にテレビ放映の講義を視聴することがありますが、講義内容も精選され、高度な教育が実施されていることを実感しています。

放送大学群馬学習センターの平成27年度版概要やHPを拝見しますと、約1,700名の学生が県内のほぼ全域から集い、10代から90代までの幅広い年齢の方々が入籍しておられます。60代以上の方々为主体的に学び続けておられることに感服していますが、これらの方々には勉強の機会を提供している放送大学は、生涯学び続けたい人にとって、なくてはならない大学となっています。一方、卒業生の数が入学者数に対して少ない状況が認められますが、これは、誰でも入学できる大学であるが故に、単位認定や卒業認定を厳格に実施し、教育面でのクオリティーを保っているためと考えられます。

教育再生実行会議の第6次提言では、「誰もが学び続け、夢と志のために挑戦できる」ことの重要性を指摘しており、放送大学の大きな存在意義が改めて確認されているところです。その上で、現在、放送大学の授業のオンライン化やスマートフォン等での視聴など、ICTを活用した教育の改善も求められています。放送大学群馬学習センターが、このような時代の要請に応えつつ、今後とも、学び続ける方々の拠り所となって活動されることを祈念して、お祝いのご挨拶といたします。

歴代所長

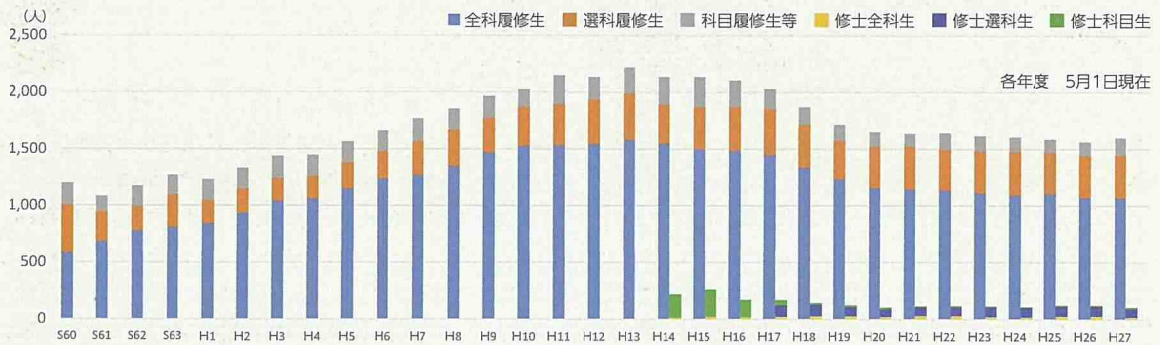
町田 周郎	S59.4 - H 1.3
瀧口 利夫	H 1.4 - H 6.3
清野 きみ	H 6.4 - H10.3
松村 祥子	H10.4 - H12.3
江洲 一公	H12.4 - H16.3
矢野由美彦	H16.4 - H21.3
白井 紘行	H21.4 - H24.3
加藤 幸一	H24.4 - 現在

歴代事務長

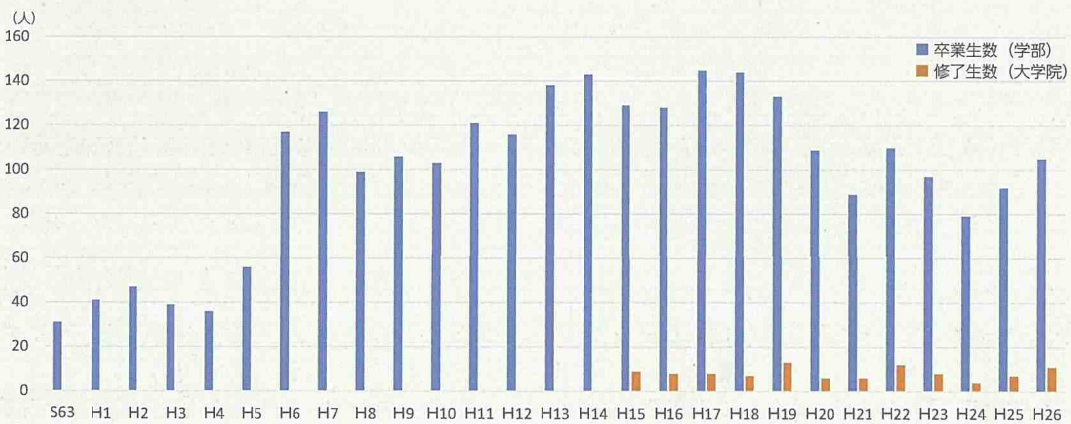
伊藤 薫	S59.4 - S61.3	柳沢 勝	H14.4 - H16.3
小須田 稔	S61.4 - H 2.3	中島 玉男	H16.4 - H19.3
須藤 謙	H 2.4 - H 3.3	戸澤 勲	H19.4 - H21.3
山岸 利光	H 3.4 - H 5.3	岡田 勉	H21.4 - H24.3
濱田 喜正	H 5.4 - H 8.3	清水伝次郎	H24.4 - H25.3
望月 教弘	H 8.4 - H10.3	廣瀬 衛助	H25.4 - H27.3
小野里直道	H10.4 - H12.3	安部 則行	H27.4 - 現在
鈴木 進	H12.4 - H14.3		

30年間の学生の推移

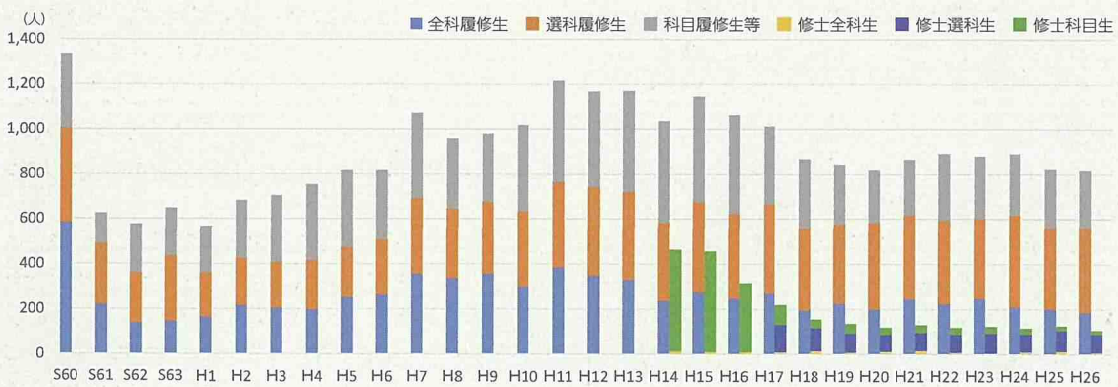
在学生の推移



卒業生・修了生の推移

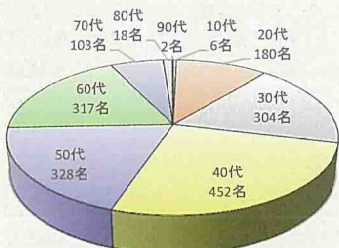


入学者の推移

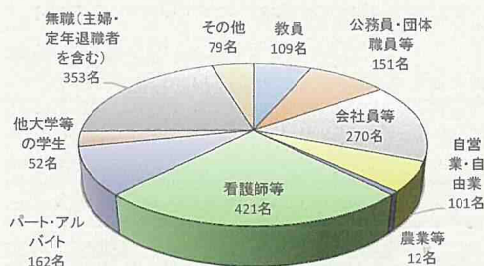


在学生の状況 (年齢、職業、学歴)

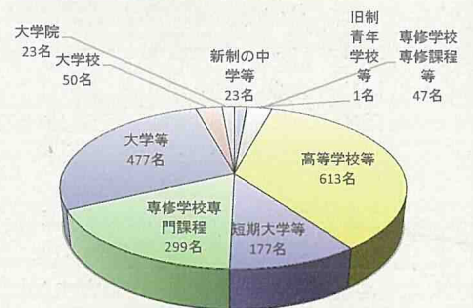
年齢 (学部・大学院)



職業 (学部・大学院)



学歴 (学部・大学院)



地域別学生数・放送大学学園放送局・沼田ミニサテライト

(平成27年5月現在)

都道府県別学生数

学生数(大学院)	
群馬県	1,433(96)
茨城県	2(1)
栃木県	50(3)
埼玉県	93(5)
千葉県	3(0)
東京都	2(1)
神奈川県	0(1)
新潟県	4(0)
長野県	12(1)
三重県	1(0)
大分県	1(0)
沖縄県	1(0)
計	1,602(108)

市町村別学生数



①放送大学学園前橋デジタル・テレビジョン放送局(榛名山ニツ岳)



③放送大学学園桐生中継用固定局(桐生市茶臼山)



②放送大学学園前橋EFM放送局(高崎市牛伏山)

沼田ミニサテライト

沼田ミニサテライトは、群馬県利根沼田県民局、沼田市及び同地区の町村の協力により平成19年4月1日に設置された放送大学群馬学習センターの再視聴施設です。施設の利用者は、沼田市及び同市周辺に在住する放送大学の学生及び地域住民を対象としています。

施設の主な業務

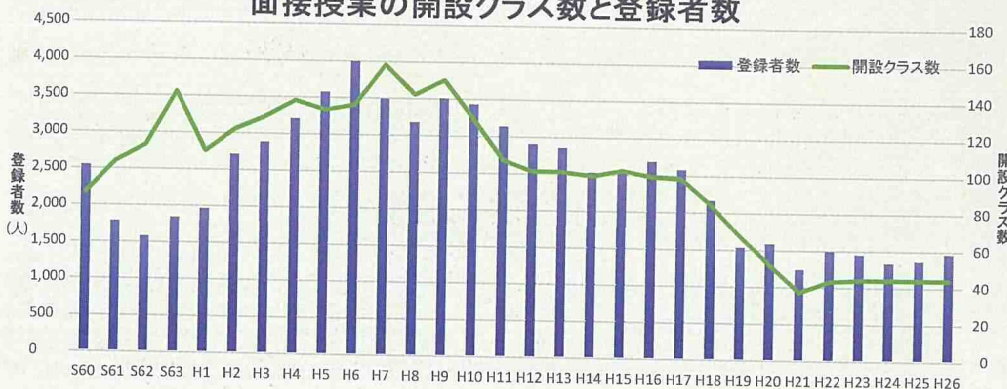
- ・放送番組再視聴の機会の提供
- ・放送教材の貸出(放送大学の学生のみ)
- ・学習上の相談
- ・地域住民への開放



30年間の学習センターの事業

面接授業の実施

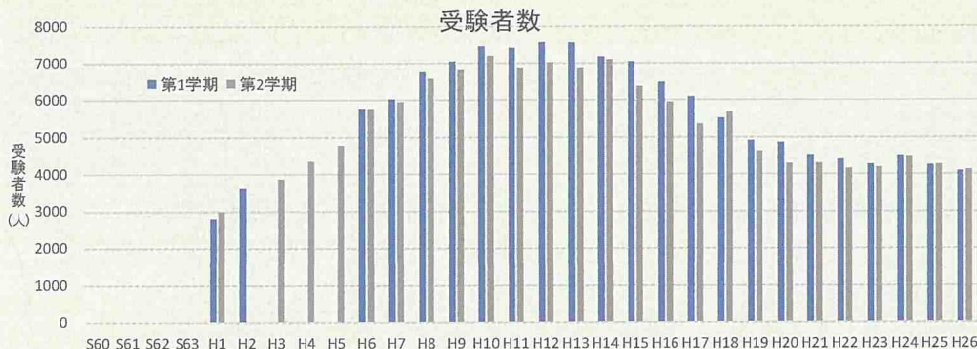
面接授業の開設クラス数と登録者数



面接授業「群馬と日本の近代蚕糸業の軌跡」の様子 (H27 富岡製糸場)

開設当時は放送授業と面接授業は同じ講義名で、合わせて3単位とされ、面接授業のみの単位取得は認めていなかった。昭和63年度に、この仕組みは廃止され、両授業は独立した。平成11年4月入学者から、94単位の放送授業の必修化がなされ、面接授業の単位を多数取得した卒業に制限が加わった。毎週(隔週)型、土日型、集中型の面接授業が開講されていたが、センター業務の合理化により、平成21年度より現行(土日型・集中型)に変更された。

単位認定試験の実施



単位認定試験の様子 (H7)

受験者数は在籍者数に比例している。なお、図中の平成7、8両年度の値は、全国の値からの推定値。

ゼミの実施

平成20年度から客員教員を委嘱できるようになり、群馬学習センターでは、ゼミ、面接授業、土曜フォーラムの講師や、履修サポート会での指導を以下の先生方に客員教員としてお願いしている。(職名は在籍時のものです。)

- 高山 清茂 (群馬大学医学部教授)
H20-H22 専門分野「神経生理学」
- 小林 徹 (群馬県立女子大学文学部教授)
H20-H22 専門分野「英文学・英米文化」
- 磯部 明彦 (群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部教授)
H21-H23 専門分野「ゼロ・エミッション、天然物化学」
- 澤井 宏明 (群馬大学名誉教授)
H21-H23 専門分野「生体機能関連化学、核酸化学」
- 富山 慶典 (群馬大学社会情報学部教授)
H22-H26 専門分野「意思決定科学、社会情報学」
- 岩永 喜久子 (群馬大学医学部教授)
H23-H26 専門分野「看護学(基礎看護学)」
- ペアリー・キース (群馬大学大学院教育基盤センター准教授)
H23-現在 専門分野「応用言語学、英語教育」

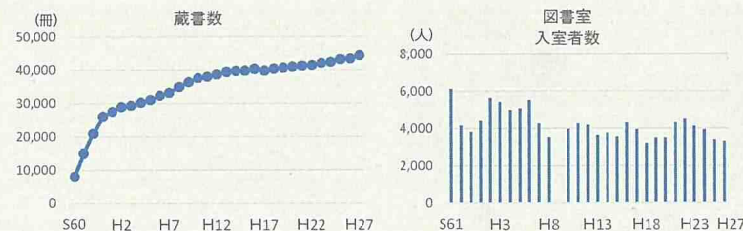
- 北川 和秀 (群馬県立女子大学文学部教授)
H24-現在 専門分野「上代文学、国語学」
- 瀬山 士郎 (群馬大学名誉教授)
H24-現在 専門分野「数学(位相幾何学)、数学教育」
- 相澤 省一 (群馬大学名誉教授)
H26-現在 専門分野「地球化学、分析化学」
- 落合 延高 (群馬大学名誉教授)
H26-現在 専門分野「歴史学、上州の近世史」
- 堀 正 (群馬大学名誉教授)
H27-現在 専門分野「心理学、コミュニケーション論」
- 神田 清子 (群馬大学大学院保健学研究科教授)
H27-現在 専門分野「看護学」



キースゼミをNHKが取材(H27)

図書室・視聴学習室の運営

群馬学習センターの図書室の蔵書は毎年の放送授業やゼミの参考書の補強により増えている。図書室のみの入室者数は単位認定試験時に増加するが、年間を通すと在籍者数の影響は小さい。視聴学習室でも、単位認定試験時には整理券を発行するほど混み合ったと言われているが、放送教材の貸出し開始・ラジオ放送授業ネット配信開始(H19)・テレビ放送授業ネット配信開始(H20)等の影響で、現在では試験時でも利用は減少している。



単位認定試験時の視聴学習室の混み合った様子 (H11)

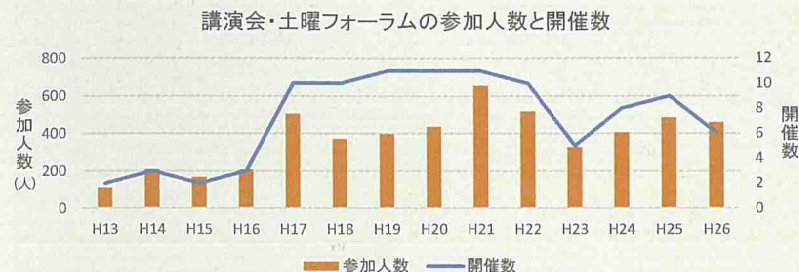
学生研修旅行の実施

学生研修旅行は、開設した頃には各学期ごとに年3回実施され、平成3年から2回となり、平成7年から現在のように年1回となる。

S60：国立西洋美術館(東京・上野) / S61：東京三洋電気株(群馬・大泉町)・東京大学東京天文台(東京・三鷹)・東京都庭園美術館(東京・港区) / S62：放送大学学園本部(千葉・幕張)・東京大学野辺山宇宙電波観測所(長野・南牧村)・ブリヂストン美術館(東京・中央区) / S63：富士工業株(群馬製作所矢島工場(群馬・太田市)・国立天文台堂平観測所(埼玉・都幾川村)・出光美術館(東京・千代田区) / H元：メルシャン勝沼ワイナリー(山梨・勝沼町)・山梨県立美術館(山梨・甲府市)・幕張メッセ(放送大学フェア) (千葉・幕張)・国立科学博物館(東京・上野)・東京証券取引所(東京・丸の内) / H2：横浜美術館(横浜市西区)・群馬日本電気株(群馬・太田市)・サントリー利根川ブルワリー(群馬・千代田町) / H3：白田宇宙空間観測所(長野・白田町)・町田市立国際版画美術館(東京・町田市) / H4：悠久山公園、長岡市郷土史料館等(新潟・長岡市)・筑波宇宙センター(茨城・つくば市) / H5：軽井沢セゾン現代美術館、軽井沢高原文庫(長野・軽井沢町)・陶芸メッセ益子、外池酒造(栃木・益子町) / H6：赤城大沼、小沼、吹割溪谷白沢村河岸段丘(群馬・富士見村、利根村、白沢村)・東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス(東京・渋谷区) / H7：尾瀬ヶ原 / H8：国立天文台(三鷹市) / H9：東京都現代美術館 / H10：上野村見学研修 / H11：たくみの里(新治村)、県立ぐんま天文台(高山村) / H12：未実施 / H13：東信濃路の文化遺産(別所、安楽寺他) / H14：放送大学本部、成田空港、成田山新勝寺 / H15：山梨ロマン街道をゆく(恵林寺、山梨県立美術館他) / H16：放送大学栃木学習センター・益子 / H17：新潟県弥彦方面(弥彦神社他) / H18：「信濃路散策の旅」(上田と別所、信州の鎌倉) / H19：新潟北魚沼郡守門村と小布施 / H20：芦ノ湖、彫刻の森美術館 / H21：信州美ヶ原高原、尖石縄文考古館 / H22：小江戸川越と大宮氷川神社、川越美術館・博物館 / H23：長野県(戸隠・小布施方面) / H24：長野県(上田・別所方面) / H25：高尾山薬王院と深大寺 / H26：築地市場散策と歌舞伎座、相田みつを美術館

講演会・土曜フォーラムの実施

開設当時から平成元年度まで、放送大学本部が企画した公開講演会が年1回程度開催されたことが「オン・エア」等の記録に残る。その後平成10年度頃まで写真集にも講演会開催の記録はない。平成11年度には学習センターが企画する公開講座として再登場し、また、平成16年度から土曜フォーラムが始まり、現在に続いている。



フリーターキングアワー等の実施

放送大学で最初に始められたフリーターキングアワーと履修サポート会とはほぼ各学期ごと、卒業論文ガイダンスは年1回、開設当初から開催されている。



フリーターキングアワー (H18)



履修サポート会 (H27)

キャンパスライフ

学び



パソコンで(H25)



実験で(H6)

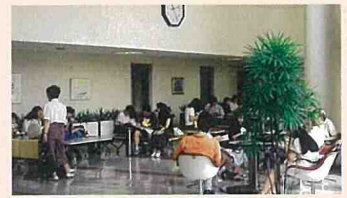


図書室で(H7 単位認定試験時)

語らい



ティータイム(H26)



ロビーで(H7)

皆で



私の課題(卒論・修論)発表会(H27)



学園祭(H26)



若宮フェスティバル(H2)



サークル活動

哲学の人間学研究会 (会員数：18名 会長：角田知泉)

哲学に関する文献、論文及び哲学思想史等の研究を通じ、哲学的な思考力を養うと共に、哲学的な人間の探求を行う。この研究会は群馬学習センター開所初年度に、原先生の「哲学の人間学」を受講した仲間が受講後さらに勉強を深めようと結成したサークルである。活動内容としては、月一度を原則として、目的に添った書籍の輪読がメインの活動である。これまでに読み上げた書籍は、デカルト「省察」、出陣教授「アリストテレス哲学入門」、プラトン「国家」、東京大学出版会「哲学原典資料集」、プラトン「ソクラテスの弁明」、アリストテレス「哲学のすすめ」などです。

若宮クラブ (会員数：75名 会長：後藤嘉文)

若宮クラブでは「仲間と共に楽しく学ぶ」を目的として、学生会員の皆様と共に学び話し合う事で、学生生活を楽しく充実したものにしていくため、種々の活動を実施してきた。

今後、ふるさとを学ぶ会、工場見学会、パソコン同好会、心理学研究会、茶道同好会、種食同好会、ゴルフ同好会など8分科会で活動実施。



第1遠隔教育研究会 (会員数：20名 会長：鳥羽治利)

国内及び海外の遠隔教育機関(大学)の調査、国内大学の運営を調査し、放送大学と比較検討・研究する。必要があれば、研究成果を放送大学へ提案する。

遠隔教育大学の創始国である英国公開大学(The Open University)、世界の各地に軍事基地で大学教育を受けたい軍人に大学教育を提供しているアメリカのメリーランド大学、学歴重視の韓国で学生数18.5万人の放送大学、また、世界2位の経済大国中国の学生数367万人の国家開放大学などを調査する。

放送大学群馬混声合唱部 (会員数：24名 会長：星野 章)

歌うことを楽しみ、豊かな心を育て、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする。

練習は月2回(土曜日または日曜日の午後)、場所はセンターの講義室です。練習曲はクラシックからポピュラー、古い歌や新しい歌、部員の歌いたい歌など幅広く楽しんでいます。



朗読と話し方クッションの会 (会員数：18名 会長：佐藤弥生)

日々の生活の中で会員同士の親睦と情報の共有・人間の理解を得るための作品を通して学び発表し研鑽する。文学作品の朗読などを学ぶ。

「はじめての文化事業活動」群馬県教育委員会に活動団体登録、教育現場への朗読・語りの実演:前橋市立小学校・学童保育など。



楽タイングリッシュ (会員数：22名 会長：小菅房子)

英語全般の向上と会員相互の親睦を目的に、平成22年3月、会員12名で活動を始めました。

平成26年10月研修旅行を行い、大学本部・東京文京学習センター・千葉学習センター見学と学生サークルとの交流、また青木久美子先生の講義を受けるなど充実した活動を行っています。



放送大学群馬学習センター数学同好会 (会員数：14名 会長：松澤正昌)

明るく楽しくかつ互いの数学力を向上させ、相互啓発と会員相互の親睦を図る。

顧問の瀬山士郎先生のゼミに参加した数学好きの仲間により本年平成27年4月に設立。スタートしたばかり、活動日は原則毎月第2、第4木曜日の午後から2時間程先生の講義、会員の研究発表、課題の解答を行っている。



天文同好会 (会員数：13名 会長：阿部博和)

天文学に興味を持った会員達が共に学び、親睦を深めることを主な目的として活動しています。

内容は、季節の星座案内、観望会、プラネタリウム鑑賞会、天文施設の見学、天文に関するビデオ学習、吉岡塾、親睦会などです。



「吉岡塾」の様子

「中秋の名月」矢嶋副会長撮影

群馬学習センター生物研究会 (会員数：10名 代表：松田君子)

地域の自然との共生を考えることを通じて豊かな人間形成を目指す。

研修会：シンポジウム「環境教育を考える」共催、国際交流 プランテーター学生間交流、大学間交流シェルブツェ・カレッジ訪問(平成26年)など、地域貢献活動:観望会参加協力及び環境学習(かんない水辺の楽校 赤城城(ヒメギフチョウ)を愛する集まり)などの活動を行う。



同窓会活動

この会は、会員相互の親睦を図ると共に、生涯学習の理想の現実を目指し、放送大学、放送大学同窓会連合会、各学習センター同窓会と連携して、母校、地域並びに同窓会の隆盛発展を図ることを目的とする。毎年度、卒業祝賀会と課題発表会を主催。

放送大学群馬同窓会の歩み

創立：平成元年12月1日 28名 初代会長：宮沢康志
 名称：放送大学同窓会群馬学習センター支部(愛称「放一大群馬の会」)
 平成2年度 会報創刊号：平成2年7月20日発行
 学園祭(若宮フェスティバル第1回開催)
 平成7年度 研修旅行
 平成10年度 会の名称及び組織再編：放送大学群馬同窓会
 会報の名称変更：赤城嶺(第17号-) 題字：原田満子
 創立10周年記念事業：会報記念号発行(24ページ)、会員名簿発行、三田街道を歩く会
 平成12年度 同窓会の旗を作成(100cm×70cm)
 平成13年度 群馬同窓会役員と学習センター教職員との懇談会開始(第1回)
 私の課題発表会第1回開催、同窓会ホームページを開設
 平成18年度 9月卒業式後の祝賀会が同窓会主催となる
 平成19年度 「二曜フォーラム」が大学と同窓会の共催事業となる

第34号会報「赤城嶺」から大学送付物の同封となる
 そば作り長期体験学習(8月～12月計5回)
 平成20年度 大学附属図書館蔵書展(6月25日～29日)於：生涯学習センター、来場者1,000余名、全日程を同窓会役員が担当
 平成21年度 履修サポート会が学習センターとの共催となる
 群馬学習センター発行「上州」に同窓会の紙面を貸与される
 学習センター掲示板使用(許可)開始 研修旅行(城下町小幡)
 平成22年度 創立20周年記念事業：会報記念号発行(24ページ)、宿泊研修旅行(東京)、記念植樹、歴代会長座談会
 平成23年度 学生相談室を同窓会室として使用開始(室内の机、ロッカー等の各種管理覚書を取り交わす)放送大学叢書販売事業の開始
 放送大学オリジナルグッズ(ネクタイ&ストール)の販売開始、研修旅行(三碑)
 平成24年度 研修旅行(ハツ場ダム建設予定地等)
 平成26年度 研修旅行(南牧村等)(足尾銅山等)



江刈一公先生最終講義(H16. 2)